



# 羽咋市復興個別計画

## 〔大川町地区〕

令和7年6月  
大川町・羽咋市

# 目 次

|   |                |   |
|---|----------------|---|
| 1 | 復興個別計画の概要      | 1 |
|   | （1）復興個別計画とは    | 1 |
|   | （2）復興個別計画の構成   | 1 |
| 2 | 地区の現状と課題       | 2 |
|   | （1）地区の現状       | 2 |
|   | （2）地区の被災状況及び課題 | 4 |
| 3 | 復興に向けた取組事項     | 5 |
|   | （1）地区の防災力向上    | 5 |
|   | （2）ハード面の機能強化等  | 6 |
| 4 | 資料編            | 7 |
|   | （1）復興個別計画策定手順  | 7 |
|   | （2）ワークショップ実施概要 | 8 |

# 1 復興個別計画の概要

## （１）復興個別計画とは

令和６年１月１日午後４時１０分に発生した令和６年能登半島地震では、本市においても震度５強（※推定震度６弱）を観測し、市内各地で液状化や家屋の倒壊など甚大な被害を受け、未曾有の大災害となりました。

これを受け本市では、被災者の住まいとくらしの再建、被災地域の復旧・復興、地域経済の再建など、住民が希望と夢をもって安心して住み続けることができるよう、令和６年８月に“羽咋市復興計画”を策定し、各種取組を進めています。

しかしながら、大規模な液状化が発生し、インフラ（道路、上下水道等）に甚大な被害を受けた地区等においては、復旧までに長い期間を要し、「いつになったら元の生活に戻るのか」「このまま住み続けることができるのか」など、地区の将来の姿が見えず、依然として多くの住民の方が不安を抱えながら生活しています。

このため、地区の実情に応じた、将来にわたってお住まいの地区に住み続けるための将来展望や、この実現に向けた地区の防災力向上等の優先すべき取組、インフラの復旧スケジュール等を明確にした“復興個別計画”を策定し、住民・地区・行政で共有することで、地区の復興に向けた取組を進めるものです。

## （２）復興個別計画の構成

復興個別計画は、大きく「復興」と「復旧」に分け、取組事項等を整理します。

「復興」に関する内容は、令和６年能登半島地震を受けた地区の問題点・課題、これを踏まえた地区の将来像、この実現に向けた取組等について、地区住民が主体のワークショップで検討・協議した内容に基づき、整理します。なお、「復興」の取組については、住民・地区・行政が協働で取り組む必要があるため、下図に示す自助・共助・公助に分け整理します。

「復旧」に関する内容※は、行政が実施する地区内の各種インフラ（道路・上下水道等）復旧の取組内容・位置及び実施スケジュールを整理します。

※大川町地区の「復旧」の内容については、別途、液状化対策において整理します。

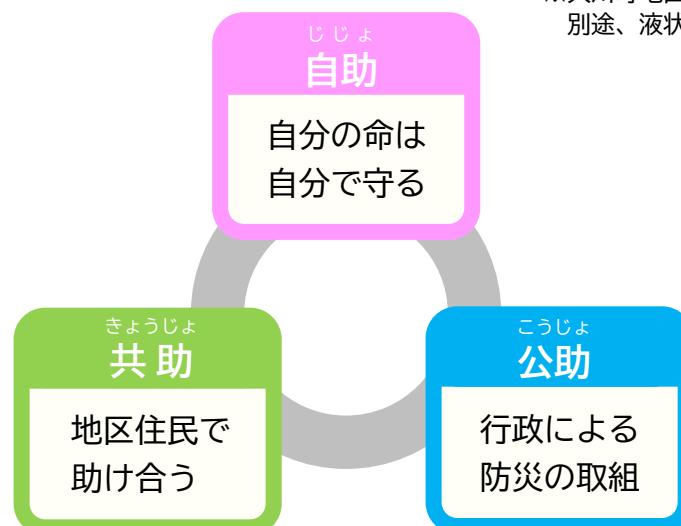


図 自助・共助・公助のイメージ図

## 2 地区の現状と課題

### （１）地区の現状

#### 【概況】

大川町地区は、中心市街地の北部に位置し、地区には低層を中心とした住宅地が形成されています。

羽咋市の中心市街地と金沢市方面を連絡する国道 249 号が幹線道路となっています。また、地区南部を羽咋川が東西に流れています。

地区内には、大川会館、北新会館を有しています。また、地区内の避難場所として「白鷺公園」、近隣の避難場所及び避難所として「羽咋工業高等学校・運動場」「羽咋工業高等学校・体育館、武道場」があります。



大川会館

北新会館



#### 【人口及び世帯数】

大川町地区の総人口は 1,021 人、世帯数は 453 世帯となっています。

地区の老年人口割合は 37.2%となっており、市全域の老年人口割合（41.0%）を下回っています。また、生産年齢人口割合（15～39 歳：21.2%、40～64 歳：33.2%）は、市全域の生産年齢人口割合（15～39 歳：19.0%、40～64 歳：31.2%）よりも高くなっています。

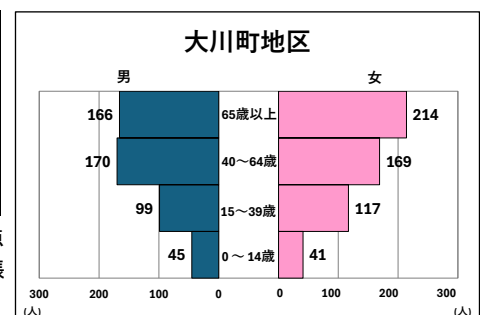
今後は、高齢化の進行が予測されることから、地区のコミュニティ活動の維持等が困難になることが推測されます。

表 大川町地区の人口（年齢 4 区分別割合）

|       | 年少人口   | 生産年齢人口  |         | 老年人口   |
|-------|--------|---------|---------|--------|
|       | 0～14 歳 | 15～39 歳 | 40～64 歳 | 65 歳以上 |
| 大川町地区 | 8.4%   | 21.2%   | 33.2%   | 37.2%  |
| 市全域   | 8.8%   | 19.0%   | 31.2%   | 41.0%  |

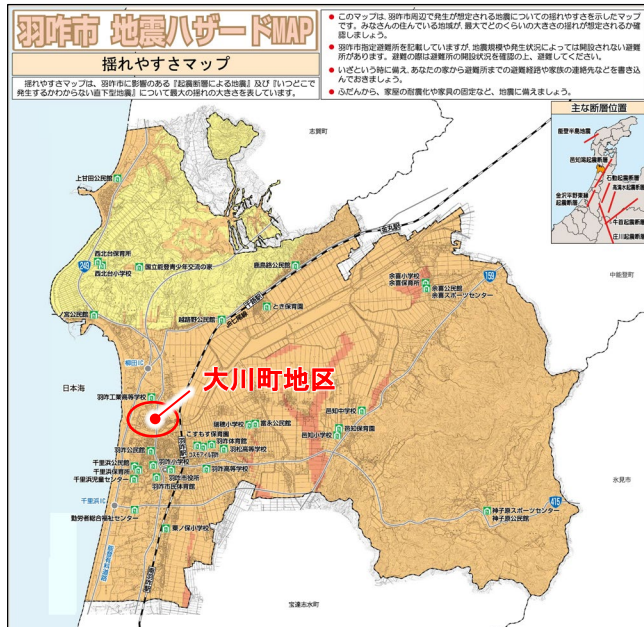
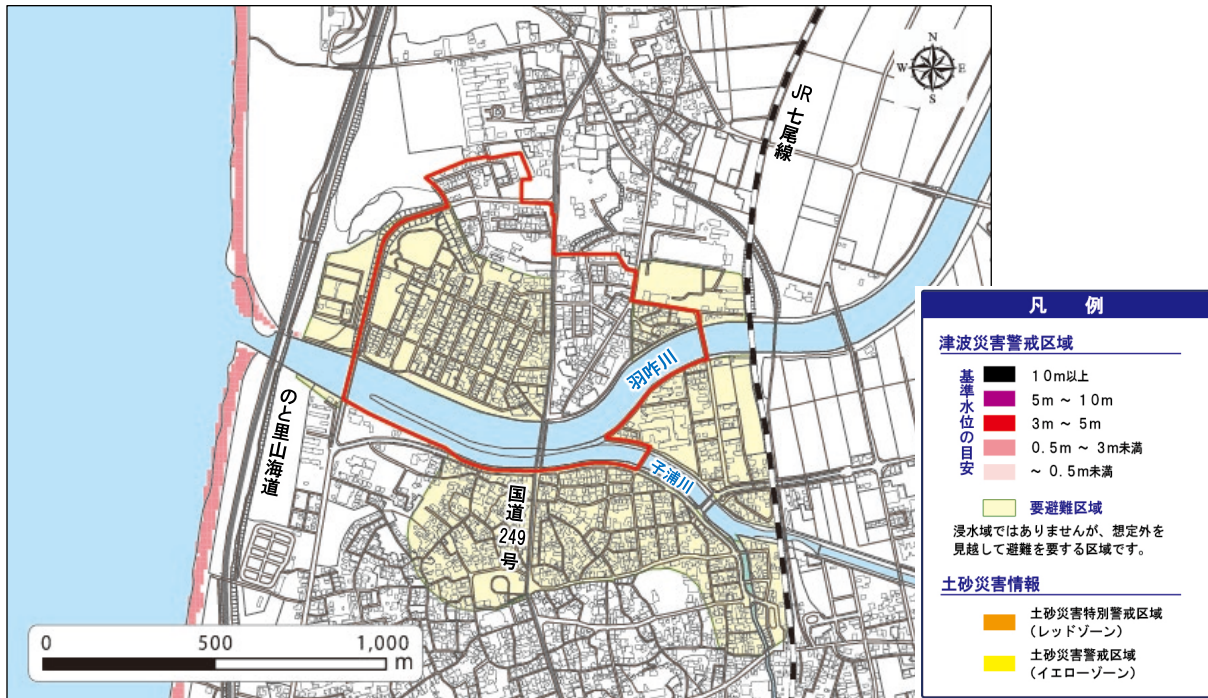
※令和 6 年 4 月 1 日時点

資料：住民基本台帳



【各種ハザードの指定状況】

大川町地区は、国道 249 号以西が津波災害警戒区域の要避難区域に指定されており、大規模な地震が発生した場合、当該区域外への迅速な避難が必要です。また、地震による地区の最大震度は 6 強が想定されています。

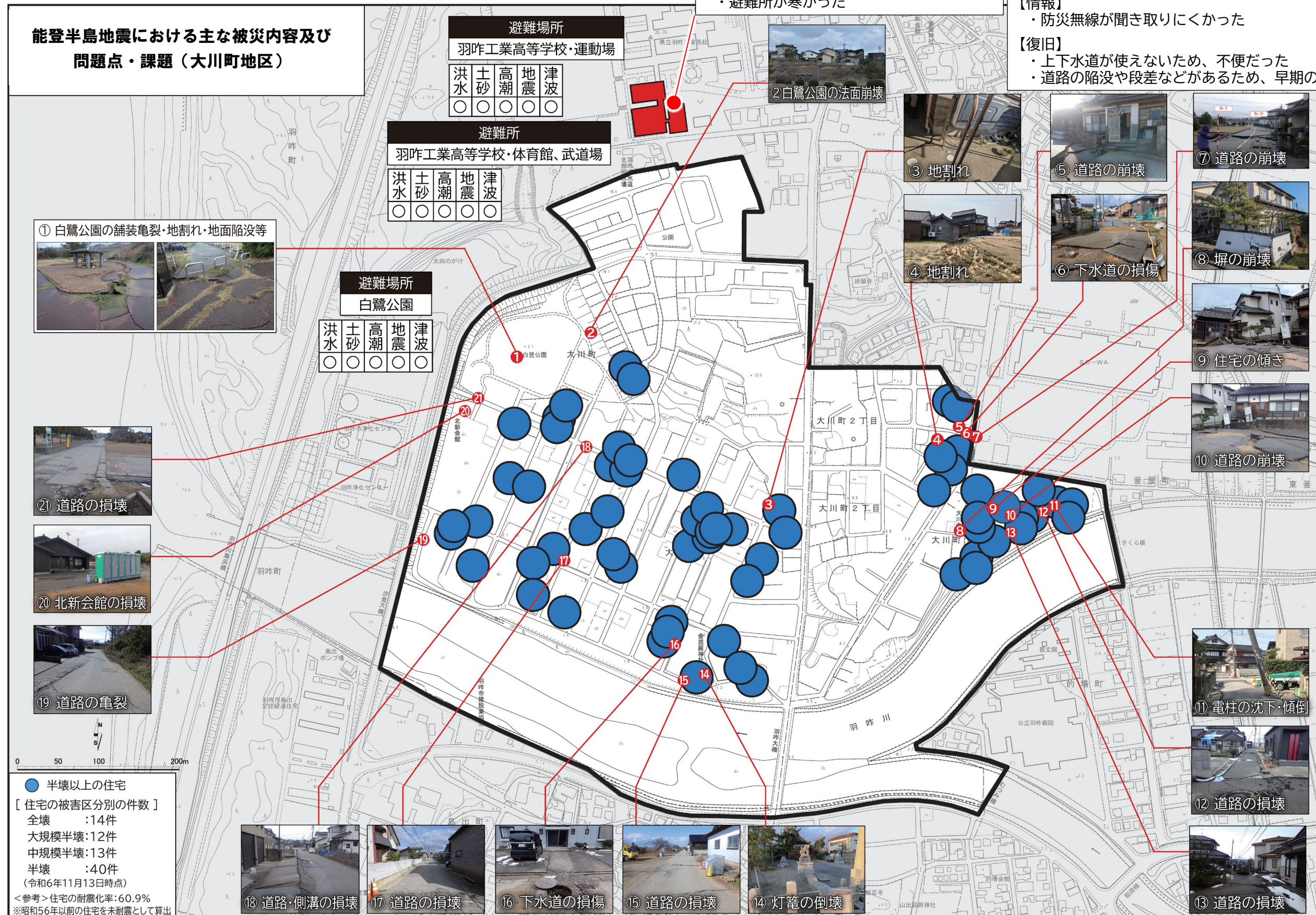


【耐震化率】

昭和 56 年以前の建物を未耐震として算出した場合（改修済みを除く）の大川町地区内における建物の耐震化率は、60.9%となっています。これは、全国平均の耐震化率（87.0%）を大きく下回っています。上記規模の地震が発生した場合、令和 6 年能登半島地震（震度 5 強）よりも甚大な被害となる可能性があります。

## (2) 地区の被災状況及び課題

令和7年1月に実施した「第1回 復興個別計画の作成に向けたワークショップ」でのご意見を踏まえた地区の被災状況及び問題点・課題は以下のとおりです。



### 3 復興に向けた取組事項

#### ＜地区の将来像＞

#### みんなが集い助け合い 将来も安全・安心に住み続けられる 大川町

日ごろからの声かけなどによって、住民同士のつながりを持ち、助け合いながら災害に備えるとともに、将来も安全・安心に住み続けることができ、地区内外問わず、「この地区に住みたい」と選ばれるまちを目指します。

前頁の被災状況及び問題点・課題を踏まえ、“取組が必要な事項”“取組内容”“具体的な活動等”を自助・共助・公助ごとに設定します。

“取組内容”については、第2回ワークショップの検討結果に基づき、“◎：最重要取組事項”、“○：重要取組事項”として整理します。

#### （１）地区の防災力向上

##### 【自助】

| 取組が必要な事項   | 取組内容                       | 具体的な活動等               |
|------------|----------------------------|-----------------------|
| 迅速・的確な避難行動 | ◎どのような季節や時間帯でも安全に避難できる事前準備 | ◇避難用リュック、避難グッズの事前準備   |
| 〃          | ○参加人数の減少が危ぶまれる防災訓練への参加     | ◇防災訓練の意義の理解・参加への意識づけ  |
| 危険箇所の把握    | ○早急な復旧整備に向けた危険箇所の確認        | ◇羽咋市へ危険箇所（道路の陥没など）の連絡 |

##### 【共助】

| 取組が必要な事項      | 取組内容                         | 具体的な活動等                                                                                                                 |
|---------------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 災害時要支援者等の安否確認 | ◎災害時要配慮者が孤立しないように、近隣住民間の連携強化 | ◇班単位等による日頃からの声掛け・安否確認ができる体制の確保<br>◇班単位による災害時要配慮者の事前確認・対応方針の検討<br>◇班を越えた災害時要配慮者の情報共有<br>◇防災会・女性防火クラブによる災害時要配慮者支援のフォローアップ |
| 災害時の生活維持      | ◎不安を解消するために、災害時に使用できる水の確保    | ◇近隣の井戸水・地下水が利用できる場所の把握・周知（マップ作成など）<br>◇町会の借上げによる井戸水の共用検討                                                                |

【公助】

| 取組が必要な事項     | 取組内容                 | 具体的な活動等                                        |
|--------------|----------------------|------------------------------------------------|
| 迅速・的確な情報の発信  | ◎誰もが確認しやすい防災情報の発信    | ◇「防災行政無線放送確認ダイヤル」の周知<br>◇電話以外で防災情報を確認できる仕組みの検討 |
| 迅速な避難所の開設・運営 | ○避難所を迅速に開設するための適切な管理 | ◇避難所（羽咋工業高等学校など）の力を迅速に解錠できる仕組みの検討              |
| 迅速・的確な避難行動   | ○夜間の避難等に備えた環境整備      | ◇災害時に使用できる照明・街灯の整備                             |

（２）ハード面の機能強化等

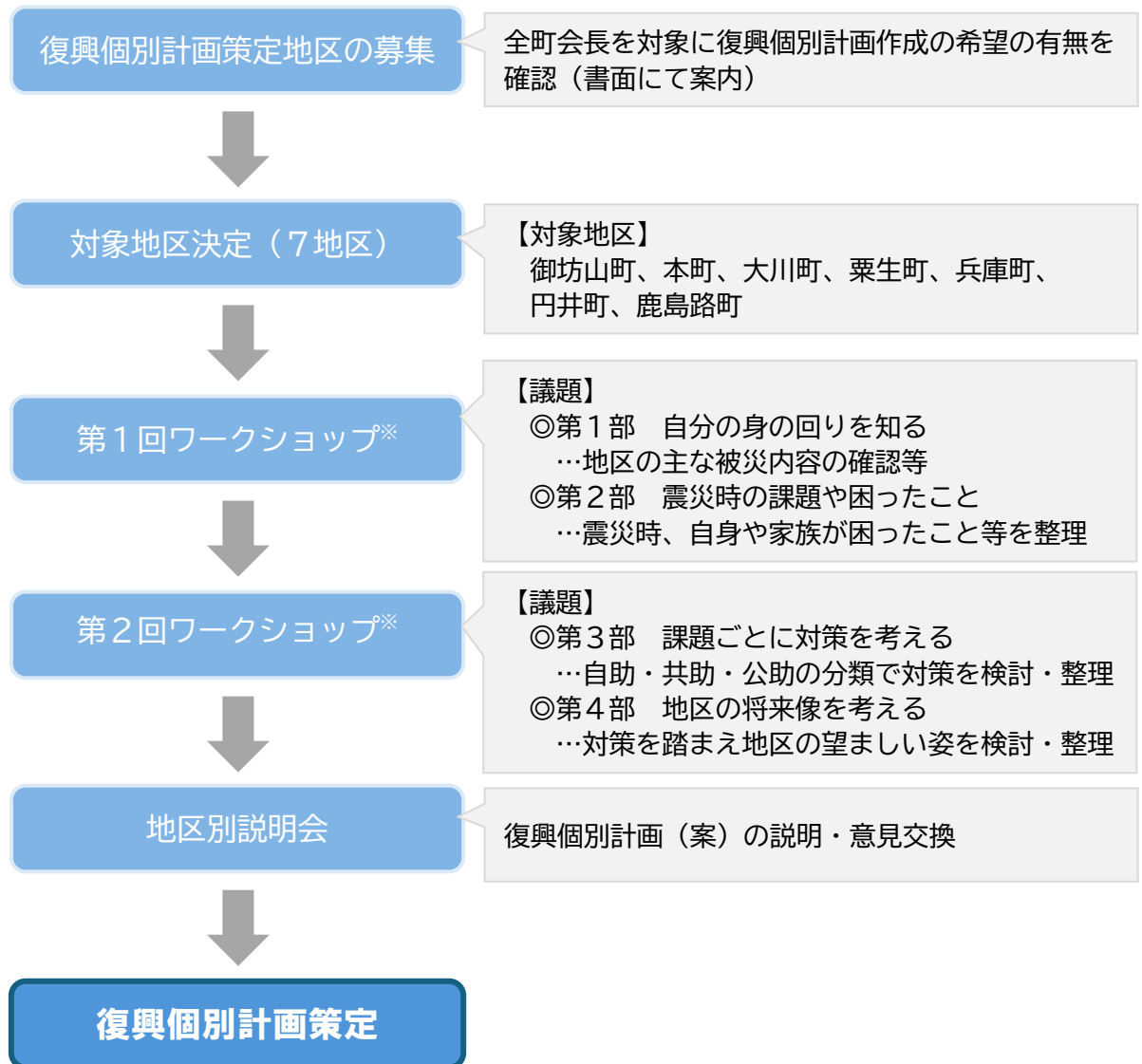
【公助】

| 取組が必要な事項 | 取組内容      | 具体的な活動等                 |
|----------|-----------|-------------------------|
| 避難所の環境改善 | ◎避難所の環境整備 | ◇避難所（羽咋工業高等学校など）の冷暖房の完備 |

## 4 資料編

### （１）復興個別計画策定手順

復興個別計画の策定は、以下の手順で実施しました。



#### ※ワークショップの概要・進め方

- 1グループあたり5名程度を基本に2～3グループで実施
- 各グループには市職員も配置
- テーマに応じて個人の意見等を付箋に書き出し、グループ内で意見交換をしながら共有・とりまとめ
- 各回、グループでのとりまとめ結果を代表者より発表し、意見を共有

## （２）ワークショップ実施概要

### ■第１回

【開催日】令和７年１月２２日（水） １９：００～２０：３０

【場所】大川会館

【参加者】町会長及び地区住民 計１１人

【議題】第１部 （現状把握）自分の身の回りを知る  
第２部 （現状把握）震災時の課題や困ったこと



ワークショップの様子

### 【主な意見（震災時の課題や困ったこと）】

| 北新地区         |                                                                                                                             | 桜ヶ丘地区        |                                                                                                                                     |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目           | 課題・困ったこと                                                                                                                    | 項目           | 課題・困ったこと                                                                                                                            |
| 災害への備え       | ・避難所が周知されていない                                                                                                               | 災害への備え       | ・避難時に身の回り品、薬等の所持忘れ                                                                                                                  |
| 避難           | ・平日、夜間の避難活動                                                                                                                 | 避難           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業高校に行かず、コンビニ等の駐車場に人が集まっていた</li> <li>・災害時要配慮者の避難活動</li> <li>・発災直後、道路被害が暗い中で危険だった</li> </ul> |
| 避難所          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所が液状化</li> <li>・避難所の耐震化</li> <li>・避難所が寒かった</li> <li>・白鷺公園が避難場所で大丈夫か</li> </ul>   |              |                                                                                                                                     |
| 情報           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災無線が聞き取りにくい</li> <li>・一人暮らしの高齢者や近所の方の安否確認</li> </ul>                               | 情報           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認の方法がない</li> <li>・市からの連絡が把握できない（防災無線が聞こえない）</li> <li>・全員が避難したか、確認に時間がかかった</li> </ul>     |
| ハード整備<br>・復旧 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・上下水道が使えない</li> <li>・家屋の修繕（業者の確保が困難）</li> <li>・マンホールの浮上</li> <li>・生活道路の復旧</li> </ul> | ハード整備<br>・復旧 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・上下水道が使えない</li> <li>・道路との段差、陥没の復旧</li> <li>・排水対策</li> </ul>                                  |
| 地域コミュニティ     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が引っ越していなくなる</li> <li>・会館が使えず行事ができない</li> </ul>                                     | 地域コミュニティ     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き地が増えて、今後どうなるか不安</li> </ul>                                                                |

## ■第2回

【開催日】令和7年2月26日（水） 19：00～20：45

【場所】大川会館

【参加者】町会長及び地区住民 計8人

【議題】第3部 （対応協議）課題ごとに対策を考える

第4部 （将来展望）地区の将来像を考える



ワークショップの様子

### 【地区の将来像案】

フレーズ：より助け合い、将来も安心して住める町／

みんなが集い助け合う 備えて安心・安全の大川町

### 【主な対策】

|    |       |                                      |
|----|-------|--------------------------------------|
| 自助 | 最重要対策 | 防災リュックの準備                            |
|    | 重要対策  | 道路の陥没等の変化に気づいたら、市に連絡する／<br>防災訓練への参加  |
| 共助 | 最重要対策 | 班ごとの安否確認体制の構築／<br>利用可能な井戸の共有（マップ作成等） |
|    | 重要対策  | 災害時要配慮者の事前把握                         |
| 公助 | 最重要対策 | 防災無線の代替方法（電話等）の周知／<br>避難所への冷暖房整備     |
|    | 重要対策  | 発災時に点灯する照明の整備／<br>避難所の自動解錠システムの導入    |